令和７年度　青森市立古川中学校　学校経営方針

青森市立古川中学校

Ⅰ　学校経営の基底

校長の経営理念

子どもたちが安全に、安心して活動に取り組める学校
～　失敗から学ぶことができる環境づくり　～

「**教育は人づくり**」と考え、知徳体の調和のとれた豊かな人間性をもつ生徒の育成を目指す。しかし、生徒が成功体験をとおして自己肯定感を高めることを大切にするため、大人が結果や効率の良さを重視し過ぎ、様々な経験を通じて子どもが自ら考え、学ぶ機会を奪ってきたかもしれない。

青森市では「**夢と志をもち、挑戦する児童生徒の育成**」を掲げているが、失敗を恐れていては、生徒が新しい試みに挑戦し、真の達成感、肯定感を得ることができないと考える。また、個がもつ特質や対人関係の希薄さから、トラブルが発生したり、不安を抱えたりし、考えたことや思ったことを実行することに消極的な生徒が増えていることも事実である。

そのような児童生徒が安全に、安心して生活できる環境を整え、児童生徒が仲間との関わりの中で、目標に向かって失敗を恐れず挑戦する気持ちをもてる学校（**適切な目標設定と勇気づけ**）をつくっていきたい。

校　訓

理 解 協 力　　自 律 責 任　　誠 実 創 造

～昭和２６年６月制定～

教育目標

じっくり考え、はっきり伝え合い、しっかり形にする生徒

努力目標　（めざす生徒像）

・夢の実現に向けて、自律した学びができる生徒

・自他の良さを大切にし、互いに高め合える生徒

・自らの健康課題を意識し、健康的な生活を送る生徒

３Ｆship

1 「約束を守り、中学生らしい生活態度を身につける」（自律）・（責任）　（誠実）　**（ Fair ）**

2 「友情を大切にし、互いに協力し合う心を養う」（理解）　（協力）　**（ Friendship ）**

3 「何事にもファイトを燃やし、積極的に参加する」（創造）　**（ Fight ）**

～昭和５７年度古川中学校生徒会「古中生三つの決意」～

学校課題

ア、学力向上　～新しい時代と社会を生きる子どもたちに必要な学力～

・授業は自分に合った教え方、内容になっているか。
・授業では課題解決に向けて、自分から取り組んでいたか。
・仲間と話合う活動（はっきり伝え合い）を通して、自分の考えを深めたり、広げたり（じっくり考え）できたか。
・分かった点を見直し、次の学習につなげていたか。
・各教科で学んだことを生かし、自分の考えをまとめる活動（しっかり形にする）を行っていたか。

イ、不登校、特別な配慮を要する子どもたちへの対応

ウ、スマートフォンの利用時間、利用方法に関わる指導

〈目指す学校像〉

・最低限のルール、マナーが守られ、安心して生活できる学校
・相手を理解し、思いやる言葉掛けがあふれる学校
・明るく、前向きな態度で学習や諸活動に励む生徒、教師がそばにいる学校
・結果ばかりでなく、努力した過程についても認め合える学校
・地域のことを考え、貢献しようとする気持ちが育つ学校

キーワード
・**凡事徹底**
→　集団生活における最低限のルールやマナー
・**夢を語れる生徒**
→　夢や志をもち、挑戦する生徒
・**地域の核となり頼られる中学生**
→　生徒の自己肯定感、自己有用感・地域貢献

○子どもは自分の成長を、保護者は自分の子の成長を通じて学校の教育活動が効果的に機能しているかを見ています。

・子どもたちが活動を通して成長する場面（授業、各行事、委員会・係活動、部活動等）を意図的、計画的に設定していきましょう。
・一人一人の子どもの活動をしっかりと見取り、その結果や過程を正しく評価し、子どもに返すことにより、挑戦する意欲の喚起につなげていきましょう。

〈目指す生徒像〉　※令和７年度努力目標　再掲

（１）夢の実現に向けて、自律した学びができる生徒
（２）自他の良さを大切にし、互いに高め合える生徒
（３）自らの健康課題を意識し、健康的な生活を送る生徒

○令和６年度の調査において、学習塾に通う生徒の割合は全体の３割程度でした。「**確かな学力**」を身に付けさせるためには、「**家庭学習の習慣化**」や「**ＡＩドリルを活用した反復学習**」等についても、生徒に定着させていく必要があります。

※やらせて、子どもが効果を実感できるような働きかけ

○生徒同士の馴れ合いにより、不適切な言動が見られる場面もあります。相手を思いやり、共に成長できる環境づくりを進めるために、今まで以上に「**道徳教育の充実**」や「**LINE、SNSでの発信**」を含め集団の質の向上を目指す必要があります。

※デジタル・シティズンシップ教育の推進
子どもたちがインターネットや情報端末を安全に利用しながら、健全な成長ができるようにするための指導

〈目指す教師像〉

（１）子どもに寄り添い、認め、**勇気づけ**、伸ばす教師　**（子どもに対する愛情）**
（２）指導力の向上に向けて、自己研鑽に努める教師　**（教育に対する情熱）**
（３）挨拶、礼儀、コミュニケーションを大切にし、社会人として信頼される教師　**（社会人としての自覚）**

○子どもから学ぶことの重視
・様々な特質をもつ子どもたちが増えているばかりでなく、各自が抱える背景も多様化している。同じめあてを掲げても、そこにたどり着くまでの過程も時間も異なるため、子の特性、能力に合わせて解決していくための手立てをもたせることが必要である。その術を自分で見つけ、身に付けていくことも新しい時代と社会を生きる子どもたちにとっては必要な学力と言える。教師が一方的に教え込むのではなく、子どもに解決に向けた道筋を模索させたり、仲間と協力して解決に向かわせるための指導方法の習得も、教師は身に付けていかなければいけない。

ファシリテーション	：集団で問題や課題を解決するために、認識を一致させたり、相互理解を促したりするサポート
コーディネート	：人と人、人と情報、人と資源を適切に結びつけること調整すること

Ⅱ　基本方針

学校課題の解決に向けて

1　主体的、対話的で深い学びの推進

（教える場面と課題解決に取り組ませる場面を明確にした指導計画の作成）
○授業改善に向けた校内研修の推進
（数値に表れにくい学力にも目を向けた指導）
○**自力解決の場**の設定（アウトプット型学習）
○**対話**を通した「**広く、深い学び**」の実践

広く	… 他にも様々な考え、意見はある。それも受け止め、尊重しなければいけないという姿勢
深く	… 他の人の意見も尊重しながら、自分の考えを練り上げていきたいという気持ち

○「教え愛学習」による**基礎的基本的な学習内容の定着**
（課題解決を図るための**手立て**と**見通し**を子どもにもたせるための指導）

2　生徒の幸福度（well-being）を向上させるための指導、支援

○生徒理解の深化（ケース会議の充実）
○不登校、特別な配慮を要する生徒への支援に係る校内研修の推進
○**適切な言語環境**の確立　**～　生徒・教師共に見直す　～**
（アサーション・Ｉメッセージ・アンガーマネジメント）
○他の考えも理解（共感）し、尊重できる生徒の育成
○生徒が持続可能な地域づくりを自分事として考える場の設定
（総合的な学習の時間「ＳＤＧｓ×古川」、ボランティア活動の充実）

3　健康的な生活習慣の確立

○情報端末の利用と睡眠時間の確保

・デジタル・シティズンシップ教育の推進
（**家庭での情報機器等の使い方・時間**について生徒自らが考える場の設定）
・十分な睡眠が確保されていない子どもはストレス要因に対して怒りの反応が高くなる。

○食に関わる正しい理解
○生徒の危機管理能力、自己管理能力の伸長

・危機管理能力：危機管理・安全管理・健康管理等
・自己管理能力：体調・ストレス・時間・感情・モチベーション等

目指す姿（学校・生徒・教師）を実現するために

１　地域の要望を受けて

・ＰＴＡ、学校運営協議会（コミュニティスクール）、地域学校協働活動等と連携した「**地域の核となり頼られる中学生**」の育成に向けた取組の充実
・校外学習（フィールドワーク）や職業講話を通じ、専門的な考え、意見に触れる機会の充実
・地域の防災、防犯、環境整備の充実に向けた**ボランティア活動の推進**

２　生徒に夢や志をもたせるために

・学習支援と学習機会の確保
（授業改善・校内支援センターの活用・ＳＣとの連携・特別支援教育）
・生徒が自身の将来設計をするために必要な情報（気付き）の提供
・自分の良さ、友達の良さに気付き、安心して挑戦できる環境づくり
・「**夢を語れる生徒**」の育成に向け、自分の思いをアウトプットできる場の設定

３　他（仲間）を尊重できる生徒を育てるために

・集団生活における最低限のルール、マナーの大切さ（**凡事徹底**）に気付かせるための指導
・**相手を思いやった適切な言動**をとるための指導
（ＳＮＳ、動画配信の影響を受けた間違ったコミュニケーションへの指導）
・**いじめの積極的な認知**
（早期発見、早期対応、重大事態へつながらないための指導）

Ⅲ　指導の重点

（１）自らの考えをもち、深め、表現する学習指導の推進

①主体的・対話的で深い学びを目指した**授業改善**
自律して学ぶ力の育成　～「教える」から「**支援する**」への転換～

ア　生徒が自ら考え、課題解決に取り組む場（**活動場面**）の設定
イ　**対話**を通して広く意見を聞き、自分の考えを深める場の設定
ウ　自分の考えをまとめ、**表現する場**の設定（アウトプット型学習）
エ　生徒の達成感や自信につながる評価方法の工夫
（評価と指導の一体化）

※　生徒が互いに学び合い、高め合うことができる**学習環境の整備**

②**個人差**に応じた課題設定と発問、支援の工夫を目指した校内研修の推進
③**ＩＣＴ機器**の効果的な活用と**ＡＩドリル**の利用推進
④家庭学習の手引きの活用、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導
（自律した学習者の育成に向けた指導、支援）

（２）生徒が**安心して生活できる環境づくり**を目指した生徒指導の推進

①基本的な生活習慣の定着、集団生活におけるルール、マナーの徹底
②**いじめの早期発見、早期対応**を目指し、生徒からの**ＳＯＳをキャッチ**する体制の構築（生活アンケートの定期的な実施）
③生徒同士、生徒と教師が、よりよい人間関係を築くための**言葉遣い**への指導
（生徒への講話、教員の研修会の実施）
④生徒理解を深めるための**教育相談**と組織的な支援体制づくりを推進するための**ケース会議**の充実（ＳＣ等との連携）
⑤不登校生徒が安心して学習に取り組める場の保障（**校内支援センター**の活用）と教室復帰を目指した個別プログラムの活用
⑥生徒が**正しく情報活用できる能力**を高めるための教育の推進
（ＳＮＳの利用、個人情報の保護、発信の仕方に関わる指導等）

生徒指導における早期発見、初期対応の重要性の認識
（対応の遅れや報告、説明の遅延が重大な事案へと発展する）
家庭・地域社会及び関係機関との連携

（３）生徒が達成感、満足感を味わい、仲間との連帯感を実感できる特別活動の工夫

①学校生活における課題を見いだし、解決に向けて協力し合う姿勢を育むための効果的な**話合い活動の工夫**
②学校生活の充実と向上を目指した**実践力を育む**ための生徒会活動の充実
③集団への**所属感や連帯感を育む**ための学校行事の企画、運営
④多様な他者を尊重し、**自他の良さや可能性を発揮できるような人間関係**の構築を目指した教師の働きかけ

（４）現代社会においてよりよく生きていくための心を育む道徳教育の推進

①道徳的価値を自分事として捉え、自分の内面と向き合い、考えを深めていけるような主題に迫る発問、補助発問の工夫
②道徳的価値について多面的・多角的に考えられるような、**生徒同士の議論、話合い（対話）を行う場面**の確保
③自校における道徳教育の重点目標を意識した指導

１　自他の生命を尊重し、**他を思いやる心**を育てる。
２　自ら考え、共に学び、積極的に**社会に貢献する態度**を養う。
３　自然を愛し、美しいものや崇高なものに**感動する心**を育てる。

（５）テーマ「ＳＤＧｓ×古川」を掲げ、持続可能な地域の実現を目指すプロジェクト型学習の推進

１学年　古川地域に必要な施設を考える。
２学年　古川地域を見直して、古川の魅力を再発見する。
３学年　安心・安全に暮らすことができ、更なる発展ができるような青森駅周辺づくりプランを提案する。

①**探求的な課題設定、流れ**を意識したプロジェクト型学習の推進
②フィールドワークを中心とした地域の教育力の活用
③思考ツールを活用したグループによる**協働的な学習**の推進
④振り返りを大切にした個人内評価の重視
⑤将来に希望をもち、夢を叶えようと挑戦する態度を育む**キャリア教育**の推進

将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心、意欲を高め、進路計画を立てたり、当面の目標を持たせることだけがキャリア教育ではありません。
キャリア教育の定義は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、自らの役割の価値（**自分の良さ**）や自分と役割との関係（**社会、地域のために自分は何ができるか**）を見いだす」ことを促すための教育です。

（６）多様性・包摂性に配慮した特別支援教育の推進

①個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成、活用
②ケース会議等による生徒理解の深化と指導・支援に関わる方法の共有
③**一人一人の実態**に合わせた家庭、関係機関との連携の強化
④特別支援教育に関わる教員の**資質・能力の向上を目指した研修**機会の確保（ＯＪＴを含む）

（７）健やかな心身を育む健康・安全教育の推進

①生徒**自らが健康的な生活を目指し**、基本的な生活習慣づくりを目指す態度を身に付けさせるための指導の工夫
（スマートフォンの利用時間・睡眠時間の確保を含む）
②食事の重要性を理解し、健全な食生活に関する知識をもとに、望ましい食習慣を身に付けさせるための指導の工夫
③事故防止、防災に対する意識を高め、**安全な生活を送る力**を育成するための効果的な学習の場の設定
④感染症などの疾病についての理解を深め、予防に努める態度を育むための指導の工夫

（８）「**地域の核となり頼られる中学生**」の育成を目指したボランティア活動の推進

①生徒の自己有用感を高める**ボランティア活動**の設定と実施方法の工夫
②地域、小学校と連携した**防災教育**の推進
（**学校安全総合支援事業**と連携した避難所設営訓練や防災教室等）
③学校運営協議会との連携を図った地域貢献活動の計画、運営

（９）小学校との系統性を意識した小・中学校の連携

①「**９年間で育てたい子ども像**」の共有と系統性をもった指導計画の作成
②小中学校の円滑な接続を目指した交流会や行事の計画、実施
③学区児童生徒の実態を踏まえた小中合同による教員研修の実施
④児童生徒の健全な成長を目指した学校と地域、家庭の協力体制づくり

（10）教職員としての資質・能力の向上と魅力ある職場づくり

①**時代の要求に合わせ**、自らの資質・能力の向上、アップデートに努める教職員集団づくり
②「**教育は人づくり**」の考え方に基づく生徒指導の推進
③学校課題解決に向け、組織として対応に努める体制づくり
④教職員の多忙化解消に関する指針の確実な運用
⑤安心して、互いに情報交換、相談等ができる風通しの良い職員室経営

Ⅳ　確かな教育活動を進めるための共通理解事項

生徒や保護者、地域に信頼される教育活動を進めるために心がけること

①生徒の安全を最優先にした対応（危機管理の日常化）
②報告・連絡・相談・確認の徹底（緊急時以外は正しい報告の手順）
③教職員間での情報共有と協働指導体制の構築（**生徒指導における複数対応**）
（指示、伝達事項の周知・日常的な情報交換・職員間の意思疎通）
④記録の累積（原則、メモは５Ｗ１Ｈを明確にする・**保管期限ありの情報**確認）
⑤適切なワークライフバランスを目指した業務改善と意識改革

令和７年度　古川中学校グランドデザイン

子どもたちが安全に、安心して活動に取り組める学校

～　失敗から学ぶことができる環境づくり　～

校　訓

・理　解　協　力
・自　律　責　任
・誠　実　創　造

教育目標

じっくり考え、はっきり伝え合い、しっかり形にする生徒

古中生三つの決意（３ＦShip）　～昭和５７年度全校生徒会設定～

〈Fair〉　「約束を守り、中学生らしい生活態度を身に付ける」
〈Friendship〉　「友情を大切にし、互いに協力し合う心を養う」
〈Fight〉　「何事にもファイトを燃やし、積極的に参加する」

地域の願い(KEYWORD)

・凡事徹底
・夢を語れる生徒
・地域の核となり頼られる中学生

努力目標	夢の実現に向けて、 自律した学びができる生徒	自他の良さを認め、 集団の向上に力を 発揮できる生徒	自らの健康課題を意識し、 健康的な生活を送る生徒
基本方針	自律して学ぶ力の育成 （主体的、対話的で深い学びの推進） **学力向上** 新しい時代と社会を生きる 子どもたちに必要な学力 （広く、深い学び・アウトプット型学習）	生徒の幸福度(well-being)を 向上させるための指導、支援 **インクルーシブ教育の推進** 不登校、特別な支援・配慮を 要する子どもたちへの対応 **相手を思いやった言動の指導**	健康的な生活習慣の確立 **デジタルシティズンシップ教育の推進** 生徒の**危機管理能力、自己管理能力** （規則正しい生活習慣・食育の推進）
指導の重点と具体的な手立て	**（１）自らの考えをもち、深め、表現する学習指導の推進** ①「自律して学ぶ力」の育成に向けた授業改善（教える→支援する） ※対話、活動場面、表現の場 評価方法、学習環境 ②個人差に応じた指導 ③ＩＣＴ機器、ＡＩドリルの活用 ④家庭学習の手引き、ユニバーサルデザインの視点 **（４）現代社会においてよりよく生きていくための心を育む道徳教育の推進** ①主題に迫る発問、補助発問 ②話合い場面の確保 ※多面的・多角的に考える力 ③自校における道徳教育の重点目標 **（５）テーマ「SDGs×古川」を掲げ、持続可能な地域の実現を目指すプロジェクト型学習の推進** ①探求的な課題、指導計画の作成 ②フィールドワークを中心とした地域の教育力の活用 ③協働的な学習の推進 ④個人内評価の重視 ⑤キャリア教育の推進	**（３）生徒が達成感、満足感を味わい、仲間との連帯感を実感できる特別活動の工夫** ①学校生活における課題の解決向けて協力し合う姿勢を育むための話合い活動 ②学校生活の充実と向上を目指した実践力を育む生徒会活動 ③集団への所属感や連帯感を育むための学校行事の工夫 ④多様な他者を尊重し、自他の良さや可能性を発揮できるような人間関係の構築 **（６）多様性・包摂性に配慮した特別支援教育の推進** ①個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成と活用 ②生徒理解の深化と指導・支援の共有 ③一人一人の実態合わせた家庭、関係機関との連携 ④教員の資質向上を目指した研修機会の確保 **（８）地域の核となり頼られる中学生の育成を目指したボランティア活動の推進** ①生徒の自己有用感を高めるボランティア活動の設定と実施方法の工夫 ②地域、小学校と連携した防災教育の推進 ③学校運営協議会との連携を図った地域貢献活動の計画、運営	**（２）生徒が安心して生活できる環境づくりを目指した生徒指導の推進** ①基本的な生活習慣、集団生活におけるルールとマナー ②いじめの早期発見、早期対応 ＳＯＳの受け止め方 ③言葉遣いの指導 ④教育相談とケース会議の充実 ⑤校内支援センターの整備と個別のプログラムの活用 ⑥生徒が正しく情報活用できる能力の向上 ※デジタルシティズンシップ教育 **（７）健やかな心身を育む健康・安全教育の推進** ①生徒が健康的な生活を目指す態度の育成 ②望ましい食習慣を身に付けさせるための指導 ③安全な生活を送る力の育成するための学習の場の確保 ④感染症の予防に努める態度を育むための指導
	（９）小学校からの系統性を意識した小・中学校の連携 ①「９年間で育てたい子ども像」の共有 ②小中学校の円滑な接続を目指した交流会、行事の実施 ③学区児童生徒の実態を踏まえた合同研修会の実施 ④児童生徒の健全な成長を目指した地域、家庭との連携	**(10)教職員としての資質・能力の向上と魅力ある職場づくり** ①時代の要求に合わせた、教員の資質・能力の向上 ②「教育は人づくり」の理念に基づく生徒指導の推進 ③学校課題解決に向けた組織的な対応 ④教職員の多忙か解消に関する指針の確実な運用 ⑤風通しの良い職員室経営	

家庭・地域との連携

○　ＰＴＡ・学校運営協議会(コミュニティスクール)
　地域学校協働活動との連携
○　小中連携事業（千刈小・古川小）の継続
○　地域の人材の活用（校外学習・職業講話）
○　ボランティア活動の推進、地域行事への参加

確かな教育活動を進めるための共通理解事項

①　生徒の安全を最優先にした対応（危機管理の日常化）
②　報告・連絡・相談・確認の徹底
③　教職員間での情報共有と協働指導体制の構築
④　記録の累積
⑤　適切なワークライフバランスを目指した業務改善と意識改革